

第 1 回（仮称）小牧市立第一こども園建設検討委員会 会議録

日時	令和 4 年 1 1 月 2 1 日（月）午前 1 0 時～ 1 1 時 5 5 分	
場所	小牧市役所東庁舎 5 階 大会議室	
学識経験者	中部大学工学部建築学科 教授	中村 研一
	名古屋経済大学人間生活科学部教育保育学科 特任教授	長江 美津子
各種団体関係者	小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会 主任児童委員	羽田 博美
	大山保育園 保護者代表	池田 稔
	第一幼稚園 保護者代表	山口 海
	第一幼稚園 保護者代表	石橋 佳織
	ふれあいの家あさひ学園 施設長	長谷川 寛
	大山保育園 園長	大野 千恵
	第一幼稚園 園長	小川 由美子
欠席委員	なし	

※傍聴者 1 名

【事務局】

ただいまより第 1 回（仮称）小牧市立第一こども園建設検討委員会を開催いたします。初めに本日の資料の確認をさせていただきます。次第と、資料 1 から 1 1 までであります。

「次第」 A 4 サイズ片面印刷 1 枚。

資料 1 「（仮称）小牧市立第一こども園建設検討委員会委員名簿」、A 4 サイズ片面印刷 1 枚。

資料 2 「（仮称）小牧市立第一こども園建設検討委員会設置要綱」、A 4 サイズ両面印刷 1 枚。

資料 3 「（仮称）第一こども園建設に向けたこれまでの経緯と建設の必要性について」、A 4 サイズ両面印刷 1 枚。

資料 4 「第一幼稚園の認定こども園化に向けた保護者説明会（令和 4 年 10 月 6 日開催）にかかる事前のご質問に対する回答」、A 4 サイズ両面印刷 4 ページ。

資料 5 「第一幼稚園の認定こども園化に向けた保護者説明会（令和 4 年 10 月 6 日開催）にかかる事前にいただいたご意見の一覧」、A 4 サイズ両面印刷 3 ページ。

資料 6 「第一幼稚園の認定こども園化に向けた保護者説明会 説明会要旨」、A 4 サイズ両面印刷 5 ページ。

資料 7 「事業概要」、A 4 サイズ片面印刷 1 枚。

資料 8 「令和 9 年 4 月開園スケジュールと第一幼稚園在園児の関係」、A 4 サイズ片面印

刷1枚。

資料9「(仮称)第一こども園建設基本構想・基本計画策定フロー(案)」、A4サイズ片面印刷1枚。

資料10「認定こども園の整備事例」、A4サイズ両面印刷21ページ。

資料11「(仮称)第一こども園建設に関するアンケート調査計画書(案)」、A4サイズ両面印刷7ページ。

資料は以上となります。不足がある方はお申し出ください。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。それではこども未来部長よりご挨拶申し上げます。

1 あいさつ

【事務局(こども未来部長)】

皆様、改めまして、おはようございます。本日はご多忙にもかかわらず、「第1回(仮称)小牧市立第一こども園建設検討委員会」にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、皆様方にはそれぞれのお立場から日ごろより格別のご支援・ご協力をいただき、改めて厚くお礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、第一幼稚園は昭和41年に開園した市内唯一の公立幼稚園です。現在の園舎は昭和49年度に建てられ、築48年が経過し、園舎の老朽化が進んでいます。また、園児数については、ライフスタイルの変化に伴う共働き世代の増加等による保育園の需要の高まりや、平成30年度から保育料の見直しがされたこと、さらには令和元年度からの幼児教育・保育の無償化などの影響により、平成27年度と比較しますと、現在では約半数の69人の園児数となっております。

また、第一幼稚園に近接する大山保育園についても、建築後約50年が経過し、園舎の老朽化が進んでおり、遊戯室を保育室として活用するなど保育室が慢性的な飽和状態にあることや、住宅地内にあり送迎用の駐車場が十分確保できないなど、立地上の問題があります。

これらの課題を解決するため、令和9年4月の開園を目標に、第一幼稚園と大山保育園を統合した公立認定こども園の建設を予定しております。

小牧市としては、初の公立認定こども園建設となるため、委員の皆様方のお知恵をお借りしながら、建設に向けた準備を進めていきたいと考えております。

委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。あいさつとさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

2 委員自己紹介

【事務局】

次第の2、委員自己紹介につきまして、本日、皆様の机の上に建設検討委員会委員の委嘱状を配付させていただきました。配付をもって委員の委嘱に代えさせていただきますので、

よろしくお願ひいたします。委員の皆様の名簿は、資料1のとおりです。

恐れ入りますが、本日お集まりいただきました皆様方の自己紹介をお願いいたします。それでは中村委員から時計回りに順をお願いいたします。

(中村委員から順に自己紹介)

【事務局】

ありがとうございました。

事務局職員の紹介をいたします。

(事務局職員の紹介)

【事務局】

なお、この委員会には、(仮称)第一こども園建設基本構想・基本計画策定業務の受託者であります、株式会社地域計画建築研究所の方に同席していただいております。

(株式会社地域計画建築研究所職員の紹介)

3 委員長及び副委員長の選任について

【事務局】

続きまして、次第3「委員長及び副委員長の選任について」です。本日、資料2として「(仮称)小牧市立第一こども園建設検討委員会設置要綱」を配付させていただきました。要綱第4条の規定に「委員会に、委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選によりこれを定める」とありますので、委員の皆様のご互選により委員長及び副委員長の選出をお願いいたします。どうかご意見はありませんか。

【長谷川委員】

当委員会、基本構想・基本計画では、第一こども園の建設に向けて、施設の果たすべき役割や、大山保育園を統合するという基本的な考え、施設のコンセプトなどを議論し、それによって建物の配置計画案や、隣接します私どもあさひ学園との連続性等を検討すると聞いております。

そのことから、ぜひ委員長には、建築分野に精通しています中部大学の建築学科教授の中村委員をお願いしたいと思っております。また、副委員長ですが、令和2年度に実施された、「第一幼稚園のあり方に関する検討」に携わっていて、また、小牧市の幼児教育・保育について見識を持っています、名古屋経済大学の教育保育学科特任教授の長江委員をお願いしてはどうかと思っておりますが、いかがでしょうか。

【事務局】

ありがとうございます。ただいま長谷川委員から、委員長を中村委員に、副委員長を長江委員をお願いしたいとの発言がありましたが、いかがでしょうか。ご賛同いただけましたら拍手をお願いいたします。

(拍手)

それでは、委員長を中村委員に、副委員長を長江委員をお願いいたします。

恐れ入りますが、委員長、副委員長は中央の席へ移動をお願いします。

それでは、中村委員長から一言ご挨拶をお願いします。

【中村委員長】

ご指名いただきましたので、謹んでお引き受けしたいと思います。

これまでの議事録とかを読ませていただいても、非常に多くの方々が、この50年ぶりの改築ということで期待されているということを感じています。皆さん、委員の方々のご協力をいただいて、ぜひ地域の皆様に貢献できるよう、また、喜んでいただけるような、新しいこども園を完成できるように努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

続いて、長江副委員長から一言ご挨拶をお願いします。

【長江副委員長】

改めまして、名古屋経済大学の長江と申します。よろしくお願いいたします。

実は、私は若かりしころ、第一幼稚園に6年間勤務しておりまして、広い園庭のところに大きなイチョウの木があって、今ぐらいの季節になると子どもたちとイチョウの葉っぱを拾ったりして遊んでいた記憶があります。本当に思い入れの深い、懐かしい第一幼稚園が、こども園に変わっていかうとしているときに、こうやって会議に参加させていただいて一緒に考えることができる、いい機会をいただいたなと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

ここからの進行につきましては、中村委員長にお願いいたします。

4 協議・報告事項

(1) 委員会の公開について

【中村委員長】

それでは、次第に従いまして議事を進めます。本日の協議・報告事項であります、(1)「委員会の公開について」、事務局、お願いをいたします。

【事務局】

それでは、協議・報告事項(1)「委員会の公開について」であります。

小牧市では、審議会等の会議を公開し、その審議の状況を市民に明らかにすることにより、開かれた市政の推進を図るため「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」を定めています。

この指針により、審議会等の会議は「(1) 法令又は条例の規定により、会議が非公開とされている場合 (2) 小牧市情報公開条例第7条各号に掲げる情報に該当すると認められる事項についての審議等を行う場合 (3) 会議を公開することにより、当該会議の適正な

運営に著しい支障が生じると認められる場合」、この3つの場合を除いて、公開するものとされております。本委員会については、今、私が申し上げました（1）から（3）のいずれにも該当しないため、「公開」と考えています。

また、指針に「審議会等の会議の公開又は非公開の決定は、審議会等の長が、当該会議に諮って行うものとする」とありますので、委員の皆様にご決定していただきたいと思っております。

なお、本日の傍聴希望者は1名でございます。

以上です。

【中村委員長】

事務局より説明がありましたので、委員の皆様にお諮りします。本委員会を「公開」とすることに異議はありませんか。

（「異議なし」の声）

それでは、ご異議もないようですので「公開」といたします。では、これ以降の会議は公開といたしますので、傍聴者の入室を認めます。

（2）事業概要報告

【中村委員長】

次に（2）「事業概要報告」について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、協議・報告事項（2）「事業概要報告」について、資料3から資料8までに沿って説明をさせていただきます。恐れ入りますが、着座にて説明をさせていただきます。

資料3をご覧ください。「(仮称)第一こども園建設に向けたこれまでの経緯と建設の必要性について」を説明させていただきます。

まず、認定こども園とは、幼稚園と保育園の機能や特徴を併せ持ち、地域の子育て支援も行う施設であります。幼稚園では3歳児から5歳児の教育を行い、保育園では0歳児から5歳児の保育を行います。認定こども園では0歳児から2歳児の保育を行うとともに、3歳児から5歳児の教育・保育を行います。

次に、これまでの経緯です。第一幼稚園は、昭和41年に開園した、市内唯一の公立幼稚園であります。平成28年度から平成29年度にかけて、待機児童解消へ向けた取組の1つとして、第一幼稚園の認定こども園化について検討したものの、当時の保護者のご意見や費用対効果などを含め、総合的に判断し、認定こども園への移行を一旦保留した経緯がございます。

令和2年度には、こどもに関する施策を検証し、総合的に推進するために設置しています「小牧市こども・子育て会議」の中に、保育関係の大学教授や保育経験者などで組織する「小牧市立第一幼稚園のあり方に関する検討部会」を置きまして、第一幼稚園のあり方に関して議論を行い、第一幼稚園のPTA役員の方からも意見を伺いました。検討部会からは「園舎の老朽化への対応を含め、今後の施設形態については市が責任を持って判断すべき」との報

告を受けております。

検討部会の報告を受け、小牧市として他の公立保育園の配置にも考慮しつつ、第一幼稚園の施設形態を含め最終的な整備方針を検討した結果、令和8年4月の開園を目指し、大山保育園を統合した、公立の認定こども園を整備することとしました。

この計画の中では、令和6年度から令和7年度までの2年間、仮園舎での運営となり、現在の年少クラスの児童は年長クラスになったときの1年間、仮園舎での園生活となります。そのため、この計画について在園児の保護者に事前にご案内するとともに、在園児への配慮については、市としても重視すべきと考え、開園時期を1年先送りにもすることも視野に入れ、令和4年10月6日に、第一幼稚園の保護者を対象に説明会を開催しました。

市からの説明に対し、保護者からは「仮園舎での生活は影響が大きい。入園時に想定しておらず、既に在園している園児への配慮として、工事、開園を1年延期してほしい」とのご意見を多くいただき、再度、慎重に検討した結果、開園時期を1年先送りし、令和9年4月に変更することに決定しました。

資料の裏面をお願いいたします。市の考え方についてです。認定こども園の整備に当たっては、①大山保育園との統合にかかる保育の受け皿を確保すること、②幼児期における特別支援教育の充実、障がいのある子どもや特別な配慮を要する子どもなど、多様な子どもの受け入れ体制の充実を図ること、③長年にわたり研究事業や公開保育が実施され、市内全体の幼児教育・保育の質の向上や小学校教育との円滑な接続を推進するなど、市内で唯一の公立幼稚園としての役割を担うこと、④ライフスタイルの変化に伴う共働き世帯の増加などの要因から、保護者のニーズも多様化しており、保護者の就労要件が変わっても認定こども園であれば在籍が可能なことなどを鑑みて、整備を進めています。

建設の必要性についてであります。第一幼稚園の建物は昭和49年度に建築し、築48年が経過し、園舎の老朽化が進んでいます。また、園児数については、平成27年度と比較すると、現在では約半数の69人となっています。園児数の減少については、ライフスタイルの変化に伴う共働き世代の増加などによる保育園の需要の高まりや平成30年度から保育料の見直しがされたこと、さらには令和元年度からの幼児教育・保育の無償化によることも要因であると考えます。

資料には記載しておりませんが、実際には、第一幼稚園の園舎は、屋上の防水シートの著しい劣化により雨漏りの恐れもあり、全面的な改修が必要な状況です。外壁には、さびが発生し、さび汁が流れ、クラックや表面の仕上げ材の剥離が複数箇所に見られ、屋外階段は全体的にさびついているという状況です。令和2年度に外壁の緊急補修をスポット的に実施はいたしました。完全解決には至っておらず、一刻も早い建て替えが必要であります。

また、第一幼稚園に近接しております大山保育園も、建築後約50年が経過し、園舎の老朽化が進んでいます。乳児保育を行うために保育室の増改築を行っており、建物の構造上のわずかな隙間などからの雨漏りや、それに伴う電気や電話などの設備に不具合があります。また、遊戯室を保育室として活用するなど保育室が慢性的な飽和状態にあることや、住宅地

内にあり送迎用の駐車場が十分確保できず、近隣住民にご迷惑をおかけしている状況が続いています。

これらの課題を早期に解決し、児童の安全を第一に考えて教育・保育を行うために、第一幼稚園と大山保育園を統合した、公立の認定こども園の建設を行うものです。

認定こども園になることで変わることについてであります。3歳児から5歳児のクラスでは、同じ教室で幼稚園の子どもと保育園の子どもと一緒に教育を受けます。教育時間の終了後、保育を必要とする場合は夕方まで保育を実施いたします。また、他の部屋では0歳児から2歳児の子どもが保育を受けます。

昼食についてですが、第一幼稚園では現在お弁当をお持ちいただいておりますが、認定こども園になりますと、園内に調理室を設置し給食を提供することになります。従って給食費のご負担をお願いすることになります。

幼稚園部分の預かり保育については、教育時間終了後から午後4時30分までの内容に変わりはありませんので、必要な場合はご利用いただけます。

続いて資料4から6について一括して説明させていただきます。それぞれ先ほど申し上げました第一幼稚園の保護者を対象に開催した説明会における質疑・意見等の記録になります。資料4については、説明会の開催に当たり、事前に保護者の方からいただいたご質問と、それに対する市の回答をまとめたものになっております。資料5につきましては、説明会に当たり、事前に保護者の方からいただいたご意見をまとめたものになっています。資料6につきましては、その説明会の要旨をまとめたものになります。

ページ数が多く、時間の都合もございまして、説明は割愛させていただきますが、ご質問やご意見では、「市からの発表や説明が遅いこと」、「入園前に事業について聞いていないこと」、「仮園舎でどのように生活するのか」、「工事を1年送らせてほしい」という主旨の内容が多くありました。資料4から6につきましては、後ほどご一読いただければと存じます。

続きまして、資料7をご覧ください。事業概要についてです。

上から順に、(1)内容としまして、第一幼稚園と大山保育園を統合した、公立の認定こども園を整備するものです。

(2)場所は、現在の第一幼稚園の敷地です。

(3)園舎は、現在の第一幼稚園を解体し、敷地内に新たな園舎を建設いたします。

(4)定員の規模は、現在の第一幼稚園と大山保育園の在園児の合計を考慮し、220人から240人程度を想定しています。

(5)スケジュール案については、令和4年度から令和5年度にかけて基本構想・基本計画を策定いたします。基本構想・基本計画では、施設の果たすべき役割をはじめ、大山保育園を統合することの基本的な考え方など、施設のコンセプト、建物の配置計画案、隣接するあさひ学園との連続性等を検討いたします。令和5年度から令和6年度にかけて基本設計・実施設計を行い、令和7年度から令和8年度にかけて解体工事と建設工事を行い、令和9年4月の開園を目指すスケジュールとなっています。この場合、令和7年度、令和8年度の解

体工事・建設工事を行う間、第一幼稚園の在園児は仮園舎での保育を予定するものです。

(6) 仮園舎の場所については、第一幼稚園から北に約 500 メートルの市の土地を候補地とし、市としては最も適した用地と考えております。

この後、協議・報告事項の(3)で第一幼稚園の仮園舎の場所についてを議題としておりますので、こちらで、本委員会にて仮園舎の場所を正式に決定したいと思っております。

最後の資料 8 をご覧ください。開園スケジュールと第一幼稚園在園児の関係についてであります。基本の太い線の枠が令和 7 年度、8 年度で、仮園舎での保育期間を示しています。令和 9 年度 4 月の開園としたことにより、現在の第一幼稚園の在園児は現園舎で卒園を迎えることとなります。令和 7 年度、令和 8 年度の解体工事・建設工事の際して仮園舎での園生活となりますのは、令和 5 年度以降、令和 8 年度までに新規入園されるお子さまになります。現在、令和 5 年度の新規入園の申請を行っております。その際には、あらかじめ計画をご説明した上で入園手続きを行うようにしております。

なお、大山保育園の在園児につきましては、令和 8 年度までは現大山保育園での園生活となり、令和 9 年度から新園舎での園生活となります。

以上で(2)「事業概要報告」の説明を終わります。

【中村委員長】

ありがとうございます。ただいまの説明に対し、ご意見があれば発言をお願いします。

よろしければ、第一幼稚園の園長の小川さんから、そもそも第一幼稚園がどういう特徴を持っているかとか、これからどういうことを期待されているかということ、少しお話しただくと良いのではないかと思います。いかがでしょうか。

【小川委員】

第一幼稚園の良いところというと丁寧な保育で、一人一人を大切にしていくところで、子どもたちを中心にしていく等、主体的、主体性のある教育活動を展開しております。やはり資料 3 の「市の考え方」の①から④の中にもありましており、③の部分ですね。アンケートの回答では教育内容は変わりませんということ、保護者のアンケートの回答であるのですが、そうした意味では、子どもたちの育ちから私たち保育・教育関係者が学んでいく、それが公立幼稚園の役割だと思っています。子どもたちを中心に、地域の方もみんなが大切に一緒になって育てていっている、そんな思いをずっと私は持っていて、現在に至っています。

今後のことについてですが、私の中では、認定こども園は 0 歳児から 5 歳児まで幅広い年齢のお子さんを受け入れるということもありますので、誰でも同じように利用できるような公共性のあるバリアフリー施設であることはもちろん、ユニバーサルデザインといった、みんなが集えるような施設が望ましいと思います。また、園庭についても、乳幼児さんがいるので、みんなが園庭の中でも交流し合えるような園庭が良いと思います。自然豊かな広い園庭が現在の第一幼稚園の特色であり、認定こども園になっても現在の在園児と同じように、子どもたちが、園庭でたくさんの経験ができると良いと思っております。

【中村委員長】

はい。ありがとうございます。それでは、大山保育園の園長の大野さん。いかがでしょうか。

【大野委員】

大山保育園では、0歳児から就学前までのお子さんをお預かりしております。保育を必要とするお子さんをお預かりしておりますので、主には保護者の方の就労ですけれども、朝7時から夕方7時まで開園をしております。保育の内容といたしましては、0歳児からおりますので、特に安心・安全を心がけております。また遊びの面では、第一幼稚園と同じように、主体的な遊びの中での学びを大切にさせていただいておりますので、その点では第一幼稚園と近いものがあると思っております。

今後につきましては、小牧の子どもたちは、様々なニーズのお子さんがいらっしゃると思いますが、どのお子さんも安心して通える、そんな施設ができて、あとは、地域の子育ての支援ができる場でもありたいなと考えております。よろしく願いいたします。

【中村委員長】

ありがとうございます。もし、よろしければ、保護者の方々も、今日いらしていただいているので、こういうことは大事にしてほしいとか、もしご意見がありましたら、少し伺えればと思いますが、いかがでしょうか。

【山口委員】

うちは、長男と次男と長女と3人、第一幼稚園にお世話になっているのですが、長男のときから広い園庭で虫を捕まえたりとか、お花を摘んで持って帰ってきてくれたりとか、やはり自由にのびのび遊べるのが第一幼稚園の良いところかなという思いがずっとありますので、楽しく広い園庭で力いっぱい遊べるというのは、こども園になってもずっとそのまま、継続できたらいいなと思っています。

【中村委員長】

ありがとうございます。

【石橋委員】

私も山口さんと同様に、3人の子どもを第一幼稚園でお世話になっているのですが、上の子は、今、小学校4年生で、もう第一幼稚園を卒園してから大分経つのですが、今朝も、今日は小学校がお休みで、一緒に一番下の子を送っていったのですが、先生たちと会うことを今でも楽しみにしています。あと、子どもたちが卒園したときに、記念樹を園庭に植えるのですが、やはりそういうものも園に遊びに行ったときに楽しみに見ていたりとか、自分が在園したときにあったものが今でも残っていたりすると、子どもたちはすごく喜んで見ているので、そのように卒園した子たちが戻ってきたときに、自分たちがいたときの思い出なんか少しでも残っていると、親としても嬉しいかなと思います。

【中村委員長】

なるほど。ありがとうございます。

【池田委員】

私のほうも、今子どもが3人、大山保育園でお世話になっています。長男が小学4年生、一番下が2歳児クラスで、妻も私も夜勤持ちの仕事をしています。なので、今大山保育園で保育いただいている時間、午前7時から夜7時までという時間が、わが家は本当に重宝しているところでもあります。認定こども園、第一こども園に関しましては、今の話なのですが、もう1人、ちょっとお世話になる可能性があるのですが、今回の会議も参加をさせていただくようなことになりました。

大山保育園は、本当に良いところだと個人的には思っておりますので、大山保育園の良いところと第一幼稚園さんの良いところというものが本当に融合し合って、良いこども園ができればと思っております。

【中村委員長】

ありがとうございます。他の委員の方々、何かご意見がありましたら、ぜひ聞かせていただければと思います。

【長谷川委員】

ふれあいの家の長谷川と申します。今、実は障がいのあるお子さん、発達がちょっとゆっくりだよというお子さんをお預かりしています。先ほど説明がございました、多様な子どもさん、いろいろ障がいのある子どもさんを含めた子ども達に配慮していきたいというのは、非常にありがたいと思っております。

今、コロナの関係で、なかなか第一幼稚園との交流というのが難しいのですけれども、以前には、卒園児さん、あさひ学園にもいるのですが、あさひ学園に来ていただいて、一緒に時間を過ごすという本当に生き生きした姿を見せてもらいました。

そのような形で、いろいろな交流等を含めて、そういう連携、連続性を持った園にさせていただきたいと思っております。よろしく願いしたいと思っております。

【中村委員長】

ありがとうございます。羽田さん、何かご意見をいただけますでしょうか。

【羽田委員】

人数等が、少し気になったのですが、仮園舎で、まだ未来の話なのですが、仮園舎に何人ぐらい入りそうなのかをお聞きしたいなと思っております。

まだ募集をかけているわけじゃない、本当にだいたい何人ぐらいが、この状態で入られるのかなと思います。中ぶらりんな状態ですので、卒園する、入園する、そういう親御さんは不安なんじゃないかなと感じました。皆さん、とても子どもって、大丈夫なのって、メンタル面がすごくあるので、そういうフォローも大事なんじゃないかなと思います。よろしくお願ひします。

【中村委員長】

仮園舎のことに関しては、また、後ほど施設の話をするので、そのときに少し議論をするという形でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

【長江副委員長】

まだしっかりと第一幼稚園、大山保育園がこども園になるという、ざっくりとしたところでしかイメージがないのですけれども、でも、私が願うのは、やはり保育園と幼稚園が、1+1で2ではなく、3になったり、4になることです。老朽化したから、子どもが減ってきたから、この機会に園舎を建て替えるというだけではなく、やはり幼稚園や保育園の機能を十分に活かした建物、施設になるといいなと願っています。

先ほどの説明にもありましたように、やはり第一幼稚園は、これまでこういう、いろいろな私立とか、それから学校の教育機関とつながっている唯一の場所であったかなと思います。ですので、(仮称)第一こども園が、小牧市の中心的な、教育と保育のセンター的な役割を果たして欲しいなと思います。今まで、そういう形ではあったかなと思いますが、もう少しそういったことが強化されると良いなと思います。

あと、多様なお子さんがみえますので、そういうところと、こども園というところで、子育て支援というところでも、お母さんたちの子育てというか、いろいろと不安に思ってみえる方も多いと思います。どんどん、そういうのは年々増えていますので、そういうところでも、形だけ保育を利用しているよとか、支援しているだけではなく、お母さん同士が話し合ったり、会話ができたり、それから先生にも気軽に相談できたりして、少しでもお母さんたちの不安解消につながったりするような子育て支援の場となり、地域の顔として活性化していただきたいなと願っています。以上です。

【中村委員長】

はい。ありがとうございます。私も今の長江委員の話と全く同感です。単に幼稚園と保育園が合体するというだけで、管理・運営の効率化みたいな話になってしまうと本末転倒かと思えます。新しい教育制度に対応して、こども園ということなのでしょうけれども、幼稚園と保育園が合体するというので、これまでになかったような、様々なメリットが生じるということを施設計画に十分反映させる必要があるのではないかと思いますので、これからも皆さんの議論を楽しみにしていきたいと思えます。

それでは時間の都合もありますので、意見交換を終えたいと思えます。事務局にお願いですけれども、今いただいたご意見は、今後の基本構想の策定事務の参考にしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

(3) 第一幼稚園の仮園舎の場所について

【中村委員長】

次に(3)「第一幼稚園の仮園舎の場所について」に関して、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

はい、それでは事務局より、引き続いて、協議・報告事項(3)「第一幼稚園の仮園舎の場所について」、説明をさせていただきます。先ほどご覧いただきました資料7を、再度ご

覧ください。

資料7ですが、こちらにお示しをしています場所を第一幼稚園の仮園舎の候補地として考えています。この場所は小牧市の所有地であります。現在の第一幼稚園から、大きく距離が離れていないため、立地面で第一幼稚園を選択され利用されている保護者にとっての影響は少なく、現在の第一幼稚園と比較すると、敷地面積は狭くなってしまいますが、敷地内に国の認可基準を満たした幼稚園を整備することができるため、市としては最適な候補地として考えています。

先ほどの事業概要報告の中でお話した第一幼稚園の保護者を対象とした説明会の中では、仮園舎の場所は、いつ正式に決定されるのかと、保護者の方からご質問をいただいております。年内には正式決定する旨を回答したところであります。

この委員会の目的は「(仮称) 第一こども園建設に係る基本構想・基本計画の策定」でありますので、第一幼稚園の仮園舎の中身であるとか内容まで言及をするものではございませんが、仮園舎の場所については、このほかにふさわしい候補地もないことから、資料にお示した土地を仮園舎の用地とすることとし、本委員会におきまして、皆様にご承諾をいただき、決定したいと考えております。

なお、先ほど羽田委員からご質問がありました仮園舎で何人ぐらいの人数を想定しているかということにつきましては、先ほどもスケジュールの中で少しお話をいたしました。仮園舎での保育をされる方については、令和5年度から入園をされるお子さまになります。そういった意味では、委員ご指摘のとおり、将来、これから入ってくる子どもたちが利用するということで、いったい何人入れるのかということころは、気になるところだとは思いますが。

少なくとも現在の在園児69名、まあ70名が、3歳児から5歳児、各学年で利用できる人数、部屋配置については、十分に備えていきたいと考えております。説明は以上です。

【中村委員長】

ありがとうございます。仮園舎の場所に関するただいまの説明に対してご意見があれば発言をお願いいたします。まず、仮園舎の場所に対して何かご意見・ご質問がありましたら、聞かせていただけますでしょうか。

もし、ご意見がないようでしたら、事務局から説明のあったとおり、承認するということでご異議ありませんか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

それでは仮園舎の場所については承認しますので、以後、市において保護者への対応や事務について、適切に進めるようにしてください。

(4) 認定こども園のコンセプト・将来像等について

【中村委員長】

それでは次に、(4)「認定こども園のコンセプト・将来像等について」に関して、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは「(4) 認定こども園のコンセプト・将来像等について」は、本日、同席をいただいております、株式会社地域計画建築研究所より説明をします。

【地域計画建築研究所】

それでは、資料9からご説明をさせていただきたいと思います。座って説明させていただきます。

まず資料9につきましては、今年度から令和5年5月を目指しまして、この基本構想・基本計画をどのような形で進めていくのかということをご説明をさせていただきます。この図の右側のほうに、3つ箱がございます。第1回建設検討委員会、こちらが本日の内容でございます。「事業概要報告」「仮園舎の場所について」「あさひ学園との関わり」「施設整備事例」「アンケート調査」。

それから第2回建設検討委員会につきましては、令和5年1月ごろということで、この中では「アンケート調査結果」、それから「こども園のコンセプト、将来像について」「配置、平面計画について」「建設コスト・経済性について」をご検討いただきます。

そして、令和5年3月下旬です。第3回建設検討委員会ということで「基本構想・基本計画書案」、それから「こども園のコンセプト、将来像について」「配置、平面計画について」「建設スケジュールについて」、ご議論いただきます。

それと並行して、当社と事務局のほうで作業を進めてまいりますのが、左側の箱でございます。第一幼稚園の現況確認・ヒアリング。また改めて、大山保育園様のヒアリングもさせていただきますと考えております。調査としまして、アンケート調査。それから、こども園の施設整備事例の紹介を行います。

基本構想の策定の中では、大きく2つございまして、①番としましては「認定こども園のコンセプトについて」、あるべき姿や果たす役割、建設に関する基本的な考え方、それから、あさひ学園とのかかわりについて、検討してまいります。②番としましては「認定こども園の将来像」ということで、地域とのかかわりですとか、社会的課題、バリアフリー、ICT化、環境への配慮、防災・災害時の避難所の対応ということも検討してまいります。これらを基本構想として取りまとめます。

そして、基本計画の策定ということでは、認定こども園の機能・規模の算定ということで、機能構成、施設規模の検証、それから、各部屋の仕様などにつきましても検討してまいります。

それから2番目です。配置・平面計画。3番目が建設コスト、それから経済性。4番目が建設スケジュールということで、これらの上の箱を全て、検討させていただいた上で、令和5年5月に「(仮称)第一こども園建設基本構想・基本計画策定」ということで進めていく予定でございます。資料9につきましては、以上になります。

それでは、資料10をご説明させていただきます。お配りしています資料はモノクロだと思っておりますので、こちらのほう、画面のほうはカラーになっておりますので、こちらのほうで

ご覧いただければと思います。

本日、認定こども園の事例としまして9つ挙げさせていただいておりましたが、全てご説明していくとお時間もございますので、本質的なところをご説明させていただきたいと思っております。

こちらの内容ですけれど、視点としまして近年の、いろいろ受賞されている作品を選ばせていただいたということで、例えば「キッズデザイン」ですとか、「ウッドデザイン」。それから「これからの幼稚園施設」ですとか。「グッドデザイン」。そういったものから事例を抽出いたしました。

この中で、公立のこども園の整備事例というのは、4番目の「蟹谷（かにたに）」と書いて「かんだ」と読むらしいですけど、「蟹谷こども園」が公立です。ただし定員が135人という規模なので、今回の規模は220から240人とお聞きしていますので、そういった規模を参考にしながら事例を見ていきたいと思っております。

最近では、木造のこども園もございますし、木造でない場合も、内装材に多様に木材を使って温かみのある木質化ということも取り組まれております。途中、「ICT」とか「ZEB」とか、そういう用語が出てきておりますけれども、「ICT」に関しましては、情報通信技術の略として認識いただければと思います。それから事例の4のほうでも「ZEB」という見慣れない言葉だと思っておりますけれども、省エネ対策におきまして、エネルギー収支をゼロにすることを目標にした建築物という、環境配慮をしているふうに見いただければと思います。

こちらが、事例の1番目です。今回、第一幼稚園の敷地につきましては、現況では建物敷地が2100平米、運動用地が1403平米としていまして、合計で第一幼稚園は現在3500平米の敷地があると認識しています。その中に現在はRC造、つまり鉄筋コンクリート造の2階建ての930平米ほどの園舎が、今、建っているというところです。

【地域計画建築研究所】

こちらの事例1のほうは、敷地面積が2600平米ですので、今回の第一幼稚園の敷地よりは、やや、一回り小さいというところです。それでも、定員215名のこども園として運営されております。こちらの平面計画にありますように、当初の図が左側の図になりますけれども、当初の園舎を残しながら、同じ敷地の中で建て替えを進めていった事例ですけれども、ですので、南側に新しい園舎をコンパクトにまとめるというタイプの改築事例です。

今回、小牧市さんの場合は、別の敷地に仮園舎をつくるということですので、これとは全く違うケースになりますけれども、参考事例として挙げさせていただきました。

これが現在の、事例1番目の写真ですけれども、やはり最近のこども園は木質化、温かみのあるということが、非常に子どもにとってもいいのではないかとということで、いろいろなところで木材が使われています。外部には縁側空間の回廊ですとかデッキなんかで木材が使われているというところです。こちらの建物は鉄骨造ですけれども、内装にも非常に柔らかい素材を入れているというところです。

こども園になりますと給食をつくりますので、こうした写真にありますように調理場を眺められる窓をつくったり、調理師さんが一生懸命ご飯をつくっているのを見られるということも食育になりますので。みんなでおいしいランチを食べるというランチルームも計画されています。遊戯室や、こういったソファや椅子が配置されているような事例がございます。

事例2のほうにまいりますけれども、こちらは木材を多様に使っていて、こちらも敷地面積はそんなに広くないですね。2300平米で、定員が165名ですので、今回のこども園とは一回り小さい事例になります。鉄筋コンクリート造の2階建ての事例です。

内観の写真ですけれども、「木育ルーム」ということで、福井県の池田町の県産の杉材を、いろいろ多様なところに使っていて、子どもたちに木の香りを感じながら遊んでもらえるという空間になっています。

こちらの下のほうが0歳児・1歳時、3歳児の部屋です。それからトイレ。それからトイレも、いろいろ支障がないところには扉だとかにも木材が使われています。デッキはウッドデッキになっているというような事例です。

施設そのものとは直接関係ない事例ですけど、今の保育園でICT、情報技術の導入ということで、園と保護者のコミュニケーションを深める連絡アプリなんか結構取り組まれていることですか。それからICTの図書館。図書の貸し出しを園のほうでも行うということで、こういった子どもの本を5000冊ぐらい収蔵しているこども園の事例です。

続きまして、事例3は敷地の規模も定員数もちよっと大きすぎるので、あまり参考にはならないかなと思いましたが、子どもたちが屋外でのびのびと園庭で遊んだり、子育て支援の部屋があったり、そういった画面の左のほうに子育て支援ということで、保護者たちによるサークル活動ですとか講演会など、多目的に使用できるということがあります。

それからキッチンがあるということで教職員同士の活動の場が広がったり、コミュニケーションが広がったりということで、いろいろ多目的に使われているという事例です。これは屋外での体験です。

こちらの事例の4になりますけれども、こちらは公立の事例になります。敷地面積は8500平米ですので、今回の第一こども園とは倍ぐらいの大きな敷地になります。定員が135人。木造の平屋建ての事例です。こちらは、先ほどの環境配慮型ということで、ZEBの認定を受けている事例です。

こちら、木造、木質化を多様に取り組んでいて、中庭、子育て支援センターを分節化しまして、中庭を囲んでそれぞれの部屋があるという形でございます。後ほど平面図でもご紹介します。こちらが一番下にあります遊戯室につきましては、子育て支援の場所でもありませんけど、防災拠点の役割も担うということで、地域向けの開放的に利用できる施設として、地域開放も念頭に計画されております。災害時には指定避難所としての利用も想定されておりますので、地域住民の利活用の点も検討されているというところでございます。

これが各園児の部屋です。天井高が高くて、明るい雰囲気になっていると思います。環境

に配慮した設備が盛り込まれておりますので、いろいろな工夫がされていて、省エネ対応、人にも優しい環境配慮になっているという建物です。

こちらが、今の事例の平面図です。L型、コの字型になっておりますけど、真ん中に園庭とシンボルツリーがありまして、ピクニックデッキがあつて。こちらのほうからは、0歳児、1歳児。向こう側は3歳児から4歳児、5歳児のお部屋になっていきます。角にあるのが、ここにあるのが遊戯室。遊戯室は、先ほどの災害時の避難所になるという場所として計画されています。

遊戯室の隣にエントランスがあつて、職員室となっておりますので、誰が入ってきたか、お子さんが来たかとか、外部から誰が入ってきたかというのは、すぐにわかるといった機能構成、平面計画になっております。

こちらの水色に塗ってある部分が、エコガラスを採用した窓と書いてありますけれども、断熱性ですとかに配慮した窓を採用されているところです。

こちらの事例5につきましては、敷地面積は今回の第一幼稚園の敷地と似たような、類似する規模になっていきます。施設の外観ですとか、1階の玄関と待合のスペースは場所的にも暖炉があつたり、2歳児の保育室については、写真のように畳敷きの部屋とフローリングの部屋に分けているような形。

こちらは2階部分です。2階部分はふれあい食堂がありまして、地域交流として月に1回、地域の方や子どもさん、それからおじいちゃん・おばあちゃんを呼んで、にぎやかにご飯をいただけるという食堂が計画されています。

こちらは、事例の6です。こちら敷地の規模は大きいのですが、定員数としては230名ですので、今回の第一こども園と同じ規模として想定しております。敷地規模は広いですから、ゆとりのある配置になっておりますけれども、園児ごとに建物の平面が、それぞれブロックが違うというところです。

こちらが写真ですけれども、やはりこちらも中庭を囲んだような、建物が中庭空間を囲んだような配置ですとか、こういったお迎え広場を設けたり、ところどころに「森の中のこども園」みたいな、そういった特色のある空間をつくられています。

それから、各部屋をきっちり区画するというよりは、こちらの写真にありますように、各年齢の児童の部屋に一体的なつながりを持たせているところが特徴です。こちらも同じようにランチルームに外から見られる窓があつたりということで、食育を促進しているという事例になります。

こちらは、事例7。こちら敷地面積は大きいですが、定員は240名ということで、今回の計画規模と同等と考えまして事例に挙げさせていただきました。こちらは木造で一部RC造（鉄筋コンクリート造）で2階建てという形です。

こちらは、子育て支援センターも併設されていまして、未就園児の親子間の交流の場ということで、さまざまな行事や講演会をこの場所で行っているという事例です。

これが平面図と各部屋の内観写真です。やはりこれも木材を。鉄筋コンクリート造なので

すけれども、内装材で使えるところには、こういった木材を使っているという事例が最近が多いです。トイレについては、木材ではありませんが、天井や壁に、いろいろな絵を描かれていまして、暗いトイレにならないように配慮がされているところです。

こちらが、事例8ですね。こちらは、敷地面積が3000平米で、定員が200名ですので、おおむね、今回の第一こども園と近い。もう少しこの事例のほうが一回り小さいですが、おおむね近いと考えています。

こちらの中庭型の事例になっていまして、中庭は雨が降ったり雪が降ったりすると、中庭の雰囲気が変わって、そこがまた子どもたちの遊び場になる。水たまりが子どもたちの遊び場になったり、雪が降ると、そこで子どもたちが雪だるまをつくったり、雪投げをしたりという空間になるからということで、そういったことも意図して計画をされたようです。こちらの写真のように、天気の良い日には中庭にテーブルを出して、みんなでお昼ご飯を食べたりということもされている事例です。

これは内観の写真ですけれども、こちらの園では細かく部屋を区切らずに、家具によって年齢を分けていくということで行われているようです。ですので、将来的に園児数が増えたり減ったりしても柔軟に大きさが対応できるということで、家具による割り振りということが導入されています。

こちらはトイレですね。トイレにも非常に窓が大きく取られていまして、明るく開放的なトイレということで、どうしてもトイレだと、ちょっと怖がってしまうお子さんもいると思うので、なるべく楽しく明るい雰囲気にしたほうがよいのではないかなというふうに考えています。

最後に事例9ということで、こちらは木造の事例です。こちらは90名ですので非常に小規模ですけれども、全体的に、これは構造も木造ですし、内装材にも木が使われているということで、ランチルームも、こういった天井高の高い空間に設えられているというところがございます。

以上が資料10の認定こども園の整備事例になります。よろしく願いいたします。

【中村委員長】

ありがとうございます。それでは、ただいまの説明に対しまして、ご意見があれば発言をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。いきなりたくさん資料で、まだ整理しきれないかもしれないですけれども、今日ご覧になっていただいた中で、ぜひこういうことは取り入れてみたいなというようなご希望でも良いと思います。小川さん、いかがでしょうか。

【小川委員】

第一幼稚園の敷地の規模に合わせて映像で見させていただいたので、第一幼稚園の敷地に合わせて、どんな設計になっていくのかなと思いを巡らせていたのですが、本当にここがいいなと部分的に思えるところはあるのですが、やはり、その中には具体性も必要です。私の中では、ここを大事にしたいから、こういうふうにと位置づけし、そこは、これから皆さん

とやっていけたらいいなと思います。

いいことは、すごくいいなと思うところは場面的にはありますが、それをどうつなげていくのか今後は検討していただけるといいなと思っております。

【中村委員長】

ありがとうございます。大野さん、いかがですか。

【大野委員】

どれも魅力的な施設で、素敵だなと思ったのですが、事例7の施設外観というところで、この施設は1階建てというところなので、建つのが1階建てなのか2階建てなのかというのは今後の話となるかなとは思いますが、保育室が廊下とデッキでつながっていて一体感のある形。そして職員が子どもたちを見守りやすく、さらに異年齢同士の交流が可能というところが、とても魅力的だなというふうに感じました。

あとはトイレなのですが、どうしても暗かったり、臭いの問題というのがありますので、開放的なトイレということで、事例8の紫外線も取り込めることから臭いもほとんどなく清潔な環境というところもいいなというふうに感じました。以上です。

【中村委員長】

ありがとうございます。保護者の方、いかがでしょうか。

【山口委員】

トイレがきれいなのは、すごくいいなと思います。かわいく、いろいろな動物の絵だったり。今の第一幼稚園のトイレは、寒かったり、夏は暑かったりとか、少しトイレへ行きづらかなというところがあるので、そういうところもよくなったらいいなと思います。

【中村委員長】

そうですね。トイレが好きな場所になったら、ずいぶん印象が変わるだろうなと思います。

【石橋委員】

どの園も全体的に明るくて、こんなところに子どもが通ったら、絶対に子どもたちは楽しいだろうという事例ばかりだったのですが、今、実際、第一幼稚園がある場所に、と考えたときに、どれも規模が大きかったのでイメージしづらいと感じました。

あの敷地内に建てられる建物として、もちろん園庭も確保するとなったらなかなか、駐車場もあったり、給食室も、今はないので増設したり、0、1、2歳児の建物を建てるとなると、なかなか狭いかなと、少し個人的に思いました。

現在の第一幼稚園の定員数より、だいぶ人数も増える予定なので、そうなったときに、子どもたちが窮屈に感じないような開放的な建物が建てられればいいのかと、感じました。

【中村委員長】

そうですね。もちろん敷地の大きさというのは大事な条件なので、皆様のご意見を伺いながら、やはり優先順位を上手につけていただかないといけないのではないかなと思いますので、またこれからの会議で、そうしたご意見を伺えればと思います。ありがとうございます。

【池田委員】

どの施設も本当にとてもきれいな施設で、ゆとりを持って、子どもの目線に沿った施設であるというふうに感じております。今の大山保育園は本当に、言っては申し訳ないのですが狭い施設でもあるので、どうしても子どもが窮屈に遊んでいるというところも、やはりあるものですから、こういう広い空間で遊べるというところは非常に良いなというふうに感じております。

今回は公立の施設になりますので、やはり、今、公立の施設の前例、事例4にあるような、市として画期的な、新しくこういうこともやりましたよ、こういうこともありますよというところも多く取り入れるといいのかなと思ったりします。

【中村委員長】

ありがとうございます。そういう意味では、今回、幼稚園と保育園が合体するということ、お互いに広い場所を共有できるということが活かせるようになればいいと思います。長谷川さん、いかがですか。

【長谷川委員】

いろいろ事例を見せていただきまして、どうもありがとうございました。調理室が見えるというプランがあったみたいですが、各先生方、皆さん、現場の方は、多分ご存じだと思うのですが、玄関なら玄関にはこれ、というのがあったような感じです。

例えば、トイレが明るくてトイレトレーニングがやりやすくてとか、廊下と部屋の配置も、いろいろ交流ができるようなとか、いろいろな、各部屋、施設自体に役割があって、そんな役割を十分発揮できるような1つのパーツとして、それが全体として機能しやすいような形。いろいろな意見をいただきながら、そんな設計で建物ができるといいなと思いました。

【中村委員長】

はい、ありがとうございます。羽田さん、いかがですか。先ほどの説明も含めて。

【羽田委員】

ゼロからなので、また40、50年使えるように、いろいろな工夫をしてメンテナンスが簡単にできるように、水回りは特に、おうちもそうなのですが、とにかく大変なので、簡単に、ぱっと修理ができるような建物がいいと思います。

また、今の第一幼稚園の敷地に大山保育園の人数が来ると、多分余裕がないのではないかと、園児も窮屈かなと思うのですが、うまく、高さにするのか、園庭も、多分削られてしまうのかなとか、あと、あの場所で運動会をやるのかなとか、どこか違う場所でやるのかとか、そういうのを想定して、どうするのかと思います。

【中村委員長】

なるほど。そういう意味では、これから、いろいろな案を検討することになっていくと思いますので、そのへんの観点から、複数の案を見ていただいて、何が本当に優れているかということと一緒に考えていただくといいかなと思います。ありがとうございます。

【長江副委員長】

私が話すと、すごく欲張りになってしまうのですが、一番大事にしたいのは、やはり子どもたちが住む、生活する場なので、子どもたちの居心地の良い場所、安心できる場所というのが一番大事かなと思います。

新しいと、大人から見ると「うわあ、きれい」と思うのですが、子どもたちの育ちの場、発達の間ということだと、今、園庭があればだけで約200人の子どもたちが過ごす、園舎もかなり大きくなると園庭も狭くなってしまふのかなと思います。

今、昔の子に比べて、もう冒険する場所もないので、本当に園庭をきれいに整備してしまうと、子どもたちがチャレンジするというか、子どもたちは探検することが大好きなので、そういうような、何かくちやくちやした場所であったり、それから、やはり自然。

今、建物の中も、わりと木材が使ってたように、外でも、子どもたちが自然に触れて、その中で、1年の中で、落葉しているとか、これは1年中変わらないんだということ遊びの中で感じたり、広い鬼ごっこができるスペースも必要でしょうし、子どもたちが交流するような、出会うような小道みたいなものも必要かなと思って、やはり子どもたちにとって、その育ちにとって何が一番良いのかなということを考えてしまいます。

建物の中は、これからだと、あまり昔のように、教室みたいに仕切ってしまうのではなく、子どものこういう活動、様子に合わせながら自由に、こういうふうに大きくしてみたり、つなげてみたりというようなスペースというか、そういう、壁があまりないような。

なぜかという低年齢の子が入ってくるので、低年齢の子が入ってくると、大きい4歳、5歳の子を見ていると、わっ、怖いなという。走り回っていると。そういうところもあるし、だから、そういう子たちが安心してできる場所。

でも別々にしてしまうと、やはり子どもたちは子どもたち同士で見たり聞いたりしながら、それを刺激にして、憧れたり、好奇心旺盛になっていろいろなことにチャレンジしていくと思うので、やはり、いろいろな子たちが交流できる意味でも刺激がもらえるような、そんな空間づくりができればいいのかなと思っています。以上です。

【中村委員長】

ありがとうございます。今の長江委員の話には私も全く同感で、今日、見ていただいた多くの事例の中で、例えば、事例の8番というのは、外観は四角い建物で、すごく堅そうに見えるのですが、実際には内部空間にほとんど間仕切りがなく、中庭も自然の状態をそのまま感じられるような、子どもたちの五感を刺激するような装置ができています。

先ほどトイレの話もありましたけれども、部屋として仕切る部分は最小限にして、いろいろな年代の子どもたちが上手に交流できる、そういう仕掛けができていないかというふうに思います。

それ以外の、ある程度、年代別に部屋を割り当ててというのも、もちろん、それはそれであるのかもしれないですけども、今、長江委員にお話しいただいたように、世代間の交流が、教育上、とても良い効果も出るのではないかと思いますし、それこそが、保育園と幼稚園が合体する、大きな意味になるのではないかと思いますので、これからの計画を皆さんに

考えていただく上で一つ大事な判断基準になるのではないかと思います。

また、ほとんどの方が、多分建物は平屋だろうと思っていらっしゃるのではないかと思いますけれども、先ほどから、なるべく自然を残したいとか、今の園庭の良さを活かしたいというように、いろいろなご意見を伺っています。そうすると、場合によっては一部2階建てということで、いかに自然を上手に残すかというのも選択肢に入っても良いかなと思いますので、そのあたりのことは、これからはいろいろな提案を見ながら、皆さんで議論していただければ良いかなと思っています。よろしいでしょうか。

(5) 第一幼稚園・大山保育園の保護者及び職員へのアンケート調査について

【中村委員長】

それでは、(5)「第一幼稚園・大山保育園の保護者及び職員へのアンケート調査について」ということで、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、(5)「第一幼稚園・大山保育園の保護者及び職員へのアンケート調査について」、こちら株式会社地域計画建築研究所より説明をいたします。お願いいたします。

【地域計画建築研究所】

それでは、資料11を説明させていただきます。着座にて失礼します。

まず、1枚目の計画書というのがございまして、(1)アンケート調査の目的ですが、「市では、第一幼稚園と大山保育園を統合した公立の認定こども園建設に向けて、施設の果たすべき役割や施設のコンセプト、施設の配置計画案等の検討を行い、基本構想・基本計画を策定します。

こども園の建設検討に当たり、保護者の皆様、幼稚園・保育園関係者の皆様のニーズを把握し、基本構想・基本計画の内容に反映することを目的としてアンケート調査を実施します。」といたしました。

(2) アンケート調査の対象ですが、第一幼稚園保護者につきましては69名。第一幼稚園職員につきましては10名。大山保育園保護者につきましては112名。大山保育園職員につきましては35名ということで、現在、合計226名を対象にアンケートをさせていただく予定です。

(3) アンケート調査の方法につきましては、ウェブアンケートの回答、メールのアンケート回答を想定しておりますので、従来のような紙媒体ではなくて電子データで提出されるものを想定しております。

(4) アンケート調査の実施期間ですけれども、本日、11月21日に、この案を確認させていただいて、1週間ほどかけて、修正・庁内関係者の調整の完了を、11月30日ごろを目途にしたいと考えています。アンケート調査票の配信が12月1日ごろ、アンケート調査の回答の締め切りが12月15日ごろということで、配信から2週間程度、お時間を取らせていただいています。

アンケート調査の集計・速報としましては、令和4年12月末ということでございます。アンケートの分析・報告につきましては、第2回建設検討委員会（令和5年1月下旬ごろ）にご報告させていただく予定です。

以上が計画書の中身です。それぞれのアンケート調査の内容ですけれども、保護者向けアンケート調査内容が2ページから4ページ、それから職員向けアンケートが5ページから7ページという構成でございます。まず保護者向けアンケートの内容を確認させていただきます。

冒頭の文章は、先ほどの目的と同じものを記載させていただいています。ただし、「※ご回答いただいた内容は、(仮称)第一こども園建設検討用資料として活用させていただきます。アンケート回答：令和4年12月」ということで、日にちは、また決定次第、記入いたします。連絡先、問い合わせ先としまして、小牧市こども未来部幼児教育・保育課、それから当社、地域計画建築研究所、名古屋事務所を連名で記載させていただいています。

それから質問の内容ですが、「認定こども園とは」というものを最初に入れさせていただきました。「幼稚園と保育園の機能や特徴を併せ持ち、地域の子育て支援も行う施設です。幼稚園では3歳から5歳児の教育を行って、保育園では0歳児から5歳児の保育を行います。認定こども園では0歳児から2歳児の保育を行うとともに、3歳児から5歳児の教育・保育を行います。」ということを書かせていただいています。

質問の内容ですけれども、質問1につきましては、「お子さんは、どちらの園にお通いですか」ということで「①第一幼稚園 ②大山保育園」。

質問2が、「ご自身(回答者)は、お子さんからみて、どのようなご関係ですか」ということで「①母親 ②父親 ③祖父母 ④その他」を挙げさせていただいています。

質問3、「現在お住まいの学区はどちらですか」ということで、「①米野小学校区 ②小牧小学校区 ③小牧南小学校区 ④小牧原小学校区 ⑤味噌小学校区 ⑥その他」と書かせていただいています。

質問4は、「幼稚園・保育園と認定こども園の具体的な違いを知っていますか」ということで「①具体的に知っている ②おおよその違いは知っている ③知らない」と挙げさせていただきました。

3ページにまいります。質問5ですが、先ほどの質問4で「①具体的に知っている」「②おおよその違いは知っている」と答えた方に質問です。「認定こども園に対するイメージを以下から選択してください。」複数選択可としました。「①幼児が減少している地域で効率的に運営するため、幼稚園と保育園を一体とした施設。②開所時間中に教育時間を設けることで、幼児教育にも対応する施設。③年少クラス以上であれば仕事を辞めるなど家庭状況が変わっても、同じ園に子どもを預け続けることができる。④幼稚園よりも幅広い年齢での交流が期待できる。⑤給食がある。⑥保護者の就労状況等により子どもの登園・降園時間が異なる。⑦平日の行事や保護者会等が開催される場合がある。⑧その他。」として書かせていただきました。

続きまして質問6、「認定こども園は、0歳児から5歳児が対象となり、そのうち3歳児から5歳児の幼稚園部分については、保護者の就労状況にかかわらず利用することができます。また、子育て支援機能を持たせることや、給食の提供を行うことができます。このような変化も踏まえて、認定こども園の整備に対して、どのようなことを望まれますか。上位3つまで選択してください」ということで、13点挙げさせていただきました。

「①子どもたちがのびのびと遊べる園庭。②子どもたちが快適に過ごせる施設・設備、十分な広さがある園児室。③木材を利用した温かみのある施設。④防犯、自然災害に強い安全安心な施設。⑤異年齢児との交流。⑥地域住民との交流や小中学校との交流・連携。⑦食育の推進。⑧保育サービスや教育内容の充実。⑨保護者同士の交流の場、育児相談など子育て支援機能の充実。⑩保護者と職員のコミュニケーションの場。⑪行事の際の駐車場の確保、送迎の利便性。⑫感染症に配慮した設備や建築空間の配慮。⑬その他。」といたしました。

続きまして、4ページ目にまいります。先ほどのアンケート項目の続きですが「上記で選びいただいた項目について、具体的な意見がありましたらご記入ください」という欄を設けました。

続きまして質問7、「現在の第一幼稚園、または大山保育園への送迎方法をお教えてください」ということで、「①徒歩による送迎 ②自転車による送迎 ③自家用車による送迎 ④その他」といたしました。

質問8、「現在の第一幼稚園、大山保育園の良いところ、残してほしいところがありましたらご記入ください。（建物施設・設備に限らず、教育・保育面のご意見でも結構です）」。

質問9、「認定こども園の整備について、現状の課題（現在の第一幼稚園、大山保育園）や要望などご意見がありましたら、ご自由にご記入ください」ということで、以上を保護者向けのアンケートとして書かせていただきました。

続きまして、職員向けアンケートもご説明させていただきたいと思います。5ページです。「職員向けアンケート調査内容（案）」というところで、冒頭の文章は先ほどと同様でございます。

質問1、「ご自身についてお教えてください」。「性別、それから年齢、勤務している施設、居住地、通勤手段。属性」についてお聞きします。

質問2、「現在の第一幼稚園、または大山保育園の施設に関する印象についてお尋ねします。当てはまる番号をご記入ください。具体的な理由・ご意見がありましたら、ご記入ください」。

1つ目が「子どもの生活環境（施設内）」。「①良好 ②どちらかと言えば良好 ③どちらでもない ④どちらかと言えば悪い ⑤悪い」。5段階の選択にいたしました。「園庭の環境（施設外）」、こちらも5段階の評価の番号としました。それから「教職員の執務環境」も5段階評価として挙げさせていただきました。続きまして6ページ目、「施設に対しての満足度」につきましても5段階評価の項目とさせていただきました。

質問3、「第一幼稚園、または大山保育園の特色（他の園と違う点）や、良いところ、ま

たは継承したいとお考えのことがあればご記入ください」。

質問4、「現在の第一幼稚園、または大山保育園において、改善が必要だとお考えのことがあればご記入ください」。

質問5、「認定こども園の整備に対して、どのようなことを重視しますか。上位3つまで選択してください」。こちらは、先ほどの保護者向けのアンケートと同じ項目を入れさせていただいています。①から⑬でございます。7ページ目、質問5に対する具体的な意見がございましたらご記入くださいといたしました。

最後の質問が、質問6、「公立の認定こども園に求められる役割として配慮すべきことがありましたら、ご自由にご記入ください」ということで、アンケート表の案をつくらせていただきました。ご意見のほど、よろしく願いいたします。

【中村委員長】

ありがとうございます。アンケートは保護者向けと職員向けということで分かれていますので、本日いらしていただいている保護者の方々から少しご意見を伺いたいと思います。ただし、今日いきなり見てわからないということもきっとあると思いますので、少しお時間をいただいて、後からご意見を伺うということでもよろしいですか。

【事務局】

はい。今、委員長からご提案があったように、今、資料を用意しているところで、アンケートの内容について、今日、初めてお示しをさせていただいたということもありまして、確かに、委員長がおっしゃいますように、すぐに設問についてお考えだとか、あるいは新たな思いがあるということがあるかもしれません。

時間的猶予をとということでございましたので、予定では今月中に市役所の中でも調整を進めたいと思います。今日が21日月曜日ですので、28日月曜日まで、土日を挟んだ月曜日までに、思い付いたこと、気付いたことがございましたらお聞かせいただければと思います。

【中村委員長】

はい。ありがとうございます。とは言っても、今日思っていることがあれば発言していただいたほうが良いと思いますが、いかがでしょうか。少し時間が空いたほうがよろしいですか。もし、今の段階でご意見があれば、お聞きしたいと思います。

保護者向け、職員向けの2つに共通して、私が思ったのは、例えば、保護者向けアンケートの質問6で「その他 自由記述」というのが13番と番号が振られているのですが、こう書いてしまうと、上位3つまでとかというときに、この「その他」に丸をしないと答えられないのではないかと勘違いをしやすいなと思いました。

また、選んだ3つに関しては、もしあれば意見を書いてくださいという記述がその後に追加されているので、すべての選択項目の後に「もしほかにご意見があれば自由にお書きください」というようにしていただいたほうがわかりやすいかと思いました。

12番目の項目までで3つを選んでくださいということで、質問の仕方としてはよろしい

のですよね。

【事務局】

はい。

【中村委員長】

これは、保護者向けと職員向けの両方に共通と思いますので、直していただいたほうがわかりやすいかと思います。

よろしいですか。それではまた1週間、時間をいただきましたので、少し考えていただき、こんな項目は質問しなくてもいいのではないかという指摘も含めていただいてよろしいと思います。それでは、1週間後を期限としていただき、よろしければお仲間の方々にも相談していただき、もし何か修正すべき点がありましたら、お聞かせいただければと思います。

職員向けアンケートに関しては、いかがでしょうか。小川さん。

【小川委員】

教職員の執務環境とありますが、「教職員」という文言が幼稚園仕様かなと思い、保育園・幼稚園ともに「保育者」という言葉のほうが、皆さんに伝わりやすいかと思います。

【中村委員長】

なるほど。

【小川委員】

執務環境ということは、いわゆる職員室とか、事務をする場所というところで、保育の環境じゃないところということですよ。

【中村委員長】

そうですね。子どもたちがいる場所ではなくて、実際に運営している側ということになると思います。

【小川委員】

そういうことですよ。執務環境というところが、ちょっとわかりづらいなど。例えば「(職員室)」とか、第一幼稚園で言う「(園長室)」とか。どこまでかなというところが、ちょっと見えにくいです。

【中村委員長】

私は、もう建て替えると決まっているので、これを聞いてもあまり意味がないかと思いました。今のいいところをなるべく残してくださいということがアンケートで伝われば十分ではないかなと思います。

老朽化した建物に対してあまり環境がよくないという意見を伺っても、至極当然なことで、特に何も発見はなく、それよりも、現状の子どもの生活環境と園庭のことを皆さんがどう思っているかということは、とても重要ではないかと思います。

教職員の執務環境に関してはどのように質問するのがよろしいでしょうか。

【小川委員】

これも、給食室には携わっている方もいますし、用務員さんもいるし、保育者だけではな

く、いろいろな職員がいたということを訂正させていただくと、この言葉は「職員」が適切と思います。

【大野委員】

職員でいいかと思うのですが、この執務環境というのも、先ほど先生がおっしゃったみたいに、職員室だけではなく給食室とか、いろいろな施設があるかなというのは感じます。

【中村委員長】

そうすると、執務という言葉はふさわしくないかもしれませんね。

【小川委員】

わかりづらいな。

【中村委員長】

ええ。そうすると、教職員と保育者というのは不自然ですか。

【小川委員】

第一幼稚園だと、保育者と用務員ですけど、大山保育園だとどうですか。

【大野委員】

あと調理員がございまして、ご自身についてお答えくださいというところに何の職務なのかという記載があると、だいぶわかりやすくなるかなというのは感じます。

【中村委員長】

なるほど。勤務している施設だけではなくて、その中での職務を記載していただく必要があるということですね。それは数字で選べるようにしたほうがよいでしょうか。そうすると、どういう職務があるかというのをそれぞれリストで出していただいて、選べるようにしていただくことにいたしましょう。

職員向けのアンケートで他に修正点はありますか。

【長江副委員長】

私も読ませていただいて、先ほど中村先生がおっしゃったように、この職員向けのアンケートの質問2は要らないのではと思います。園舎が老朽化している、だから新しい園舎にするわけで、そここのところで、それは聞かれれば、仕事がしやすいかといったら、だいたい予測はつきますよね。いいですと、いい環境で仕事をしていますとは言えないはずですので。

そういう分かりきったような質問というかアンケートではなく、今ここにいない、例えば給食室の方が、どうしたら前よりもっと働きやすい、動きやすい給食室になるのかとか、用務員の方であれば、例えばトイレとか、雑務的なことをやっていただくと思うので、そういう、直接いろいろなところで、こういう園舎内で働いてくださっている人たちの担当のところで日ごろ感じていることを具体的に聞かれたほうが、より良いお考えというか意見を聞くことができると私は思います。以上です。

【中村委員長】

はい。ありがとうございます。それでは今回の職員向けアンケート案の質問3から始めてよいということですね。小川さん、いかがでしょうか。

【小川委員】

すごく建設的なアンケートになると思うのと、ただ用務員だと、第一幼稚園の職員 10 人の中の 1 人が唯一の用務員で、このアンケートに答えたときに、1 人ピンポイントで、その方の声ということで、すごく言葉の重みを感じる気もします。

その点は、用務員さんのご意見も尊重しつつ、でも、おそらく何と答えたらいいのだろうと、すごく重責な部分もあると思うので、一緒に相談に乗ります。でも、用務員をやっている本人の仕事なので、その率直な考えも出していただければと思います。

大山保育園も、用務員さんはお一人ですね。

【大野委員】

お一人いらっしゃいます。ただ、小牧の認定こども園というところで、第一幼稚園と大山保育園の、この 2 番のところは、その職員しか答えることができないなということは感じたのですが、小牧に勤める幅広い職員に、いろいろな意見を伺って考えていけたらなというのを感じます。

【中村委員長】

なるほど。そうすると、やはり質問 2 はある程度残して、簡単に答えられるようにしておいたほうが良いのではないかとということですか。

【大野委員】

ごめんなさい、質問 2 は特に必要ないと感じていますので、この質問 6 とか、例えば用務員につきましても、大山保育園と第一幼稚園だけではなく、小牧市で今、保育園で勤めてみえる用務員さん全て、あと保育士、調理員も全て意見を吸い上げて、誰が異動していくかというのわからないですし、幅広い意見で、良いものをつくっていったらなというふうには感じます。

【中村委員長】

そうですね。ただ、今回のアンケートの対象は現在の職員という前提だと思います。今のご発言は、将来職員になるかもしれない方の意見もなるべく含めたいという意味でしょうか。

【大野委員】

はい。そうすると、用務員もたくさん意見が出てくると思いますし、調理員についても、少ない人数ではなく幅広い、いろいろな経験をした職員からの意見が得られるのではないかと思います。

【中村委員長】

なるほど。現職員は 1 人しかいないけれども、実際には予備軍がたくさんいて、現在は他の施設で働いていらっしゃる方もいるので、そういう方の意見も、できれば聞いてみたいということですね。

【大野委員】

はい。

【小川委員】

そうですね。給食は、第一幼稚園ではつくっていないので、用務員は、もし給食のこともとなってくると、おそらく前職場での経験を思い出して書くのかなとか、いろいろな役割を担っている調理員さん、用務員さんもいます。

【中村委員長】

なるほど。なかなか難しいところですね。アンケートの対象をあまり広げすぎると、実際の作業が煩雑になりすぎてしまうので、とりあえずは、今の施設にいらっしゃる方は1人かもしれないですけども、その方に代表してもらって他の方の意見をまとめていただけるとよいのではないかと思います。

そのために2週間という時間を取って、その間に、お知り合いの方々とか、いろいろな方面で聞いて総合的に答えていただけると、回答は1人かもしれないけれども、その後ろには10人の人の意見が詰まっているということで、我々も心してアンケート結果を見るというようにできるのではないかと思います。

他にご意見はありませんか。それでは、アンケート内容の確認のために1週間ということで時間を取っていただきましたので、皆さん何か意見がありましたらお聞かせいただければと思います。それでは、本日の協議、報告事項は全て終了しましたので、事務局から他に何かありましたらお願いいたします。

5 その他

【事務局】

ありがとうございました。ただいま、委員長より提案と、事務局からも先ほどお知らせさせていただきましたが、アンケート調査にかかる修正や意見などについては、11月28日月曜日までにお知らせいただきたいと思っています。

次第の一番下のところに問い合わせ先を記載しておりますので、メールにてご連絡いただきますと大変助かります。保護者の委員の方につきましては、園長を通じてでも構いませんので、気付いたことがありましたら園長にお話してください。

続いて、今後の予定です。12月12日月曜日に、第一幼稚園と大山保育園の見学を予定しております。見学を希望される委員の方は11月28日月曜日までにご連絡ください。また、今後の委員会についてですが、次第にも記載のとおり、第2回は令和5年1月下旬、第3回は3月下旬を予定しております。時間は日中の時間帯でお願いしたいと思います。開催通知につきましては、決まり次第に送付いたしますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

【中村委員長】

ありがとうございます。それでは、本日の議事につきましては全て終了しましたので、事務局に進行をお返ししたいと思います。

【事務局】

委員の皆様、本日は長時間にわたり、どうもありがとうございました。それでは、これを持ちまして、第1回（仮称）小牧市立第一こども園建設検討委員会を終了します。皆様、お疲れさまでした。